

平成26年度発掘調査遺跡の紹介

よ かわ なか みち 余 川 中 道 遺 跡

(南魚沼市余川字江端ほか)

遺跡は、魚野川左岸の扇状地に立地します。一般国道17号六日町バイパス事業に伴い、昨年に引き続き発掘調査を行いました。今年度の調査区は、魚野川の支流である近尾川の右岸と左岸に分かれます。それぞれ3ないし4つの時代の遺跡が重なっていたため、調査面積は累計で20,518㎡におよびます。ここでは古墳時代の調査成果を紹介します。

近尾川右岸の調査区(写真上)では、昨年度に検出した水田跡の続きを発見しました。田んぼ1枚の広さが2m四方程度と非常に小さいのが特徴で、それらがまさに「田」の字状に整然と並んでいます。小さな区画は、勾配のある地形上につくられた水田に効率的に水を行き渡らせる、あるいは水温を早く上昇させる、などの理由が考えられます。新潟県内でこれまで発掘調査された水田跡には例のない構造です。

水田以外には、当時の人々の生活の痕跡はあまり認められませんが、大量の土器をまとめて廃棄したようなあとが点々と見つかりました(写真中)。メノウ製の勾玉や、勾玉をまねた土製品、石で作った剣や円盤など、まつりの道具も一緒に出土しています(写真下)。ムラのはずれで神まつりを行い、その都度放置されたものとみられます。

今回の調査によって、六日町バイパス事業地が、古墳時代のムラの縁辺部にあたることははっきりしてきました。ムラの中心は、調査範囲よりも西側、飯綱山古墳群が存在する丘陵の近くにあると考えられます。古墳群がつけられた時代は余川中道遺跡とほぼ重なっており、ここで生活していた人々が古墳の造営に関わったことは間違いなさそうです。今回の調査成果をもとに、古墳と集落の両面から地域社会の姿を復元していくことが今後の課題となります。

(小野本 敦)



遺跡近景 (南東から)



土器の集中地点



まつりの道具 (中央のメノウ製勾玉の長さ約4cm)

おかえ 丘江遺跡

(柏崎市田塚3丁目地内ほか)

丘江遺跡は、鯖石川^{さばいしがわ}左岸、標高6～7mの扇状地^{せんじょうち}末端に立地します。一般国道8号柏崎バイパスの建設に伴い、昨年4月から12月まで発掘調査を行いました。遺跡の全体面積延べ約74,000㎡のうち9,033㎡を調査し、中世(14～15世紀)と近世(17世紀)に集落が営まれていたことが分かりました。

検出した遺構には掘立柱^{ほったてばしら}建物・土坑^{どこう}・井戸^{いず}・溝^{みぞ}・水田^{みづい}などがあります。隣接または重なり合う柱穴が多く見られることから、断続的に建物の建て替えや新築を行っていたと考えられます。なかでも、大小の溝(堀)で囲まれた掘立柱建物は、南東部分が市道下(未調査部分)へ延びるため正確な規模は不明ですが、柱穴の規模が他に比べて大きいことが特徴です。この大小の溝に挟まれる範囲は、幅約3mの遺構空白域となっており、道や通路としての利用などが考えられます。

井戸が多いことも特徴の一つです。246基検出しました。深さ1.5m以上のものが多く、井戸側(井戸の壁の土留め)を持たない素掘りのものです。井戸底からは柄杓^{ひしゃく}や曲物^{まげもの}、板材などの木製品が出土したほか、人頭大の焼けた石を多数投げ込んだようなものもあります。また、17枚の土師質土器^{はじしつ}の皿(かわらけ)(下の写真の右側)が裏返しに重なった状態で出土した井戸もあり、これらは、井戸埋めの儀式に関わる行為を示しているのかも知れません。

遺物は中世(14～15世紀)の珠洲焼^{すずやき}や瀬戸焼^{せとやき}、土師質土器、近世初期(17世紀)の唐津焼^{からつやき}などの肥前系陶磁器^{ひぜん}をはじめ、石臼^{いしうす}・砥石^{といし}などの石製品、柄杓^{ひしゃく}や曲物^{まげもの}、鋏^{くわ}といった木製品が出土しています。これら遺物の出土量から、丘江遺跡の中世集落が16世紀頃にいったん規模を縮小する時期を経て、再び近世に集落が営まれるという流れが見て取れます。今後、近隣に位置する同時期の集落である山崎遺跡、水田跡である宝田遺跡の調査成果を踏まえ、関連性を検討することで、柏崎地域の中世の様相が一層明瞭になるものと考えられます。

((株)吉田建設 伊藤正志)



遠景 北から(右奥が米山)



掘立柱建物と溝(真上から 右が北)



井戸 鍬出土状況



17枚の土師質土器の皿(口径10・11.5cm)

平成26年度整理作業遺跡の紹介

ろく たん だ みなみ
六 反 田 南 遺 跡

(糸魚川市大字大和川字六反田地内)

遺跡は海岸線から約200m南に入った海川下流右岸の標高3～6mの沖積地にあります。北陸新幹線及び一般国道8号糸魚川東バイパス建設に先立ち、平成18年度から発掘調査を実施してきました。平成18～21年度の発掘調査は既に報告書が刊行されており、今年度は平成22～25年度に発掘調査した地区の整理作業を行っています。

遺跡は3層に分かれ、上層は古墳時代・古代、中層は縄文時代中期中葉、下層は縄文時代中期前葉から中葉で、それぞれの層からは当時の村が見つかっています。また、各層の間には洪水層が堆積しているため、これらの村は非常に良く保存されていました。特に下層の村では堅穴住居のほかに、長さ50cmを超える大型の礫を約40mにわたり数珠状に並べた列石や食物の食ベカスを捨てた廃棄場なども見つかりました。遺物は大量の土器や特産品の磨製石斧、食ベカスの骨や木の実などです。今後の整理作業を通して海辺の縄文村の暮らしぶりや生業が明らかになることでしょう。(高橋保雄)



廃棄場の埋設土器



縄文時代中期前葉から中葉の土器 (下層)



下層 列石近景 (西から)

列石を移設しました

海岸に近い地中深くから発見された縄文時代の集落は、地元にも大きな驚きでした。地元大和川地区町内会では、縄文遺跡を記念し石列を郷土学習に資するため移設を計画して、国土交通省等と協議しました。平成26年5月、一般国道8号沿いに建つ大和川の國造神社境内に、譲り受けた石列を長さ13mにわたり復元しました。今後も作業して全体を完成するそうです。当事業団でも石列を元通りに並べられるように石に番号を付け、配置図や写真を提供しました。糸魚川市を訪ねた折は是非ご覧ください。(田海義正)



移築・復元された列石

保存処理室から

木製品の保存処理に トレハロースを導入しました

これまで、事業団では出土した木製品の形状を保持するため、ポリエチレングリコールや糖アルコール（ラクチトール）を木製品に浸み込ませ、固化・結晶化する保存処理を行ってきました。しかし、数年前からラクチトールの価格が急上昇し、安定的な入手が困難になると予想されたため、平成25（2013）年度から糖の種類をトレハロースに転換することとしました。

トレハロースは、きのこ類や酵母など天然に広く分布する糖質で、現在ではでんぷんから製造されたものが、お菓子やパン、清涼飲料水、加工食品などに広く利用されています。植物の組織や細胞の中で素早く水と置き換わり、乾燥や凍結によるダメージを防止する働きがあることから、近年出土木製品の保存処理に利用されています。

トレハロース含浸法では、先ず含浸槽（保温水槽）に30%トレハロース水溶液を作り、不織布やネットで保護した木製品を漬けます。含浸槽を40～80℃に徐々に加熱し、水分の蒸発とトレハロースの追加を繰り返しながら70%程度まで水溶液の濃度を上げていきます。その後、木製品を含浸槽から引き上げて急冷し、細胞中に結晶を作ります。木製品全体が結晶化したら、表面に付着したトレハロースをスチームクリーナーで溶かし、自然乾燥します。最後に、壊れた破片を接合・修復して、保存処理の完了です。

トレハロース含浸法は、それまで利用していたラクチトールに比べて、結晶性が良く、作業に必要な人数や工程を抑えることができるという利点があります。新潟県では、保存処理を待つ木製品を多量に抱えていることから、トレハロース含浸法の利点を生かし、保存処理のスピードアップを図っていきたく考えています。



含浸槽に木製品を浸ける



結晶化中の木製品



スチームクリーナーを用いた表面処理

現地説明会を開催しました

平成26年度は11遺跡の発掘調査を行い、阿賀野市・柏崎市・南魚沼市・上越市・糸魚川市で現地説明会を開催しました。説明会では、検出した遺構や遺物について調査員が現地で説明し、参加者からの質問に答えました。また、山崎遺跡・丘江遺跡の現地説明会では、近隣で調査を実施していた宝田遺跡の遺物も展示しました。

※現地説明会の当日資料はホームページ

(<http://www.maibun.net>) に掲載しています。

遺跡名	事業名	所在地	主な時代	現説実施日	参加人数
かぶき 無木遺跡	国道49号阿賀野バイパス	阿賀野市	古代	10月18日(出)	95
さかいづか 境塚遺跡	国道49号阿賀野バイパス	阿賀野市	古代・中世	6月15日(日)	81
しんまち 新町遺跡	国道49号阿賀野バイパス	阿賀野市	中世	8月2日(出)	105
やまざき 山崎遺跡	国道8号柏崎バイパス	柏崎市	古代・中世	9月20日(出)	95
おかえ 丘江遺跡	国道8号柏崎バイパス	柏崎市	弥生～古墳・中世	9月20日(出)	94
よかわなかみち 余川中道遺跡	国道17号六日町バイパス	南魚沼市	古墳・中世	10月19日(日)	252
どうこ 堂古遺跡	国道253号上越三和道路	上越市	古代	9月6日(出)	57
すざわかくら 須沢角地遺跡	北陸新幹線	糸魚川市	古代・中世	5月24日(出)	28

校外学習の受け入れを行っています

平成26年度は延べ30校1,621人（職場体験、出前授業含む）の児童・生徒に対応しました。特に火起こし体験は、実施した学校が22校あり、大変人気の活動です。全体での活動ではマイギリ（写真上）を使った体験を行いますが、遺跡から出土した火切り棒や火切り臼を見て、モミギリ式（写真下）に挑戦する熱心な児童も多くいました。

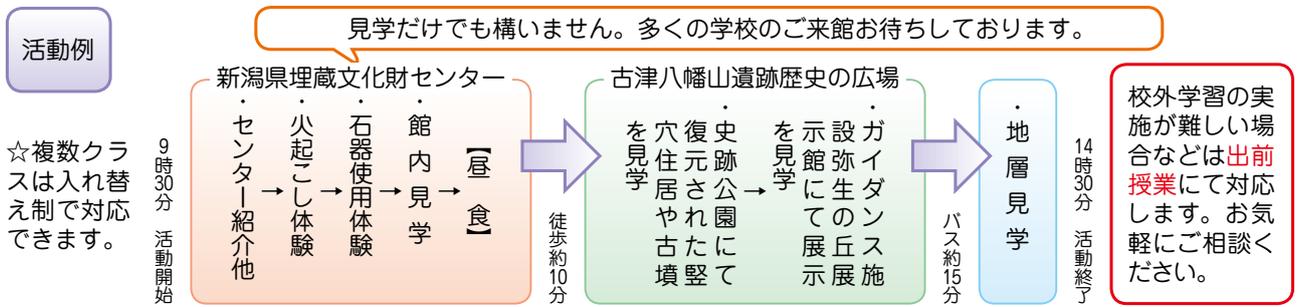


マイギリを使った
火起こし体験

平成27年度も積極的に校外学習や出前授業に対応します。27年度用の校外学習に関するチラシを作成しました。3月下旬頃、新潟市内の小学校をはじめ、近隣市町村の学校にも配布します。下記活動例のように周辺施設も合わせた複合的な校外学習をお勧めしています。詳細についてのお問い合わせや、お申し込みなどは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団普及班までお気軽にどうぞ。



モミギリ式にも挑戦



越後国域確定1300年 終了します

巡回展「遺跡が語る新潟県の歴史」

越後国域確定1300年記念事業の一環として、平成24～26年度に、新潟県教育委員会が発掘調査した遺跡の旧石器時代から平安時代の逸品を新潟県埋蔵文化財センターで展示しました。平成26年12月20日から平成27年3月22日には、新潟県立歴史博物館 企画展示室で3年分の展示品を再構成して展示しました。

新潟県立歴史博物館

住所：長岡市関原町1丁目
字権現堂2247番2
電話：0258-47-6130

関連行事の記録

企画展示のほかに、旧石器時代から古代にかけての様々なテーマについてリレー講演会を行いました。また、来館者を対象とする勾玉作りや火起こしなどの体験活動も行いました。事業の記録集や企画展の資料集は、新潟県教育庁文化行政課のホームページでご覧いただけます。（<http://www.pref.niigata.lg.jp/bunkagyosei/>）

埋蔵文化財センター 平成27年度企画展示のご案内

エントランスにて、関川村カヤマチ遺跡・魚沼市町上遺跡（縄文時代）・新発田市小船渡遺跡（中世）の遺物や遺構の写真パネルを展示しています。

7月中旬からは長岡市大武遺跡の遺物を展示する予定です。大武遺跡には深い谷があり、ここに縄文時代前期から中世までの遺物が6mあまりの厚さで堆積していました。ひとつの遺跡の遺物を時代順に展示することで、その土地で起こった変化を見て取ることができます。



県内の遺跡・遺物88

寺地遺跡出土品262点

(平成26年3月25日 新潟県指定有形文化財(考古資料))

遺跡所在地：糸魚川市寺地字大門1021-1他

遺物保管：糸魚川市(長者ヶ原考古館・青海総合文化会館・翡翠ふるさと館)

遺跡は、新潟県南西部の田海川左岸河口近くの丘陵先端部から砂丘の内側低湿地を含む地域にあります。標高は5～16mです。遺跡から約2.5km東にはヒスイや蛇紋岩の採集地として知られる姫川が流れています。ヒスイは透明感のある美しい緑色の石で現代でも珍重されています。蛇紋岩は硬く、木の伐採や加工用の磨製石斧の材料に利用されました。



磨製石斧と玉類(前列右から3番目の玉：長さ7.7cm)

寺地遺跡では大正時代から遺物が採集されており、本格的な発掘調査は青海町教育委員会による4回(昭和43～48(1968～1973)年)と新潟県教育委員会による1回(平成13(2001)年)が行われています。その結果、縄文時代中期の竪穴建物・墓坑・立石状遺構が検出され、竪穴建物ではヒスイ製玉類と蛇紋岩製磨製石斧の生産が確認されました。晩期では配石遺構・組石墓・木柱群等が検出されました。配石遺構内の炉状配石からは10体分あまりの焼人骨が出土し、聖域・祭場・斎場の意味をあわせもった施設と考えられています。このような遺構はほかに例がなく、その重要性から昭和55年に国史跡に指定されました。

遺物は多様で、土器・土製品、石器・石製品、漆製品、獣骨・魚骨、アスファルト塊などがあります。特に注目されるのはヒスイ製玉類と蛇紋岩製磨製石斧生産に関する遺物です。ヒスイ製の玉類は中期では大珠・丸玉、晩期では勾玉・丸玉・小玉・垂玉の完成品や未成品が多数あります。未成品や製作時に生じる剥片、敲石や砥石・台石などの工具も多量にあることから、磨製石斧と玉類が大規模に生産されていたことがわかります。蛇紋岩の加工には、敲石に蛇紋岩よりも硬いヒスイを、砥石に近くの川原で採取可能な砂岩を用いており、遺跡が石斧と工具の原料に恵まれた環境を活かしていた様子がうかがえます。

東日本を中心として広域に流通していたヒスイ製玉類や蛇紋岩製磨製石斧の製作工程が中期および晩期で復元できる寺地遺跡出土品は、学術的価値が高く重要であることから、県文化財に指定されました。

現在、遺跡は史跡公園として竪穴住居が復元されるなど整備され、小中学生の学習の場として活用されています。

参考資料：新潟県青海町1987年『史跡 寺地遺跡 新潟県西頸城郡青海町寺地遺跡発掘調査報告書』、新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団2002年『寺地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第113集

資料提供：糸魚川市教育委員会

埋文にいがたNo.90

発行 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
TEL (0250)25-3981
FAX (0250)25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 株式会社ハイグラフィック